



## 18年目を迎えるOBI



理事長・学院長 増田 誉雄

「すべてのことが、神から発し、神によつて成り、神に至るからです」

ローマ人への手紙11章36節

「OBIは主のものです」数年前、この深い領きが、強烈な迫りとして与えられました。

以来、OBIの運営の中にあつて、折あるごとに繰り返して瞑想しては祈りのうちに覚えております。冒頭のみことばは、OBIが主のものであることを保証するかのよう今年与えられました。

「神から発し」とは、OBIの起源に関わることと受け止

めています。宣教と教育を車の両輪として、教育プログラムの発足を、1970年代、当時のOSCC(現OCC)元理事長羽島明先生が発案されました。しかし、情勢いまだ熟せずで、神の時の到来を待つことになりました。その間、信徒教育また教職者継続教育が強く求められるようになりました。いよいよ、南館の建築完成と共に、1983年9月23日、「信徒リーダー・セミナー」が発足。同時に、教職者継続教育も始められ、新しい時代の到来を感じたのでした。この活動も時代の推移と共に脱皮を求められるようになり、理事会においても中止を考えるとところまで追い詰められました。しかし、主は新しいことを始められようとしておられたのです。

お茶の水駅前で出会った親しい宣教師が、立ち話の中で、「お茶の水聖書学院」(OBI)構想を述べるのでした。「ローマ字でOBIは『帯』に通じ、

『愛(I)は結びの帯として完全なものです。』(コロサイ3・14)とあるように、OBIはこの帯になるのです。」と言うのでした。審議を重ねて、1991年4月22日創立開校式、続いて、摂理の備えの中で、バイオラ大学学長クライド・クック博士による記念講演会を開催したのでした。

「神によつて成り」とは、17年間の神の不思議の歴史の証しです。広範囲から、種々の年齢層、多様な経歴を持つ人々が第二・第三の人生が始まると、熱意に燃えて集まってくるのに圧倒され、主を崇めたのでした。

「神に至るからです」とは、OBIのすべてを通して神に栄光を帰する感謝です。さらに諸先生方、理事、評議員、スタッフ、学院生、卒業生、なかならず支援篤志家諸氏の犠牲的奉仕・協力・祈りへの感謝です。

今年も主の不思議を歩んで参りたく思います。

# 第15回卒業式

## ●卒業式報告

卒業式は、3月8日午後2時から、OCC8階チャペルで、例年の通り式次第に則って執り行われました。

加茂康一兄、菊田洋子姉、古賀文子姉、須子都姉の四名の兄弟が卒業されました。

増田学院長からは、挨拶としてOBIの歴史が語られました。そしてOBIが正に「御言葉中心」の聖書学院であることを証しされました。

来賓祝辞として、村上宣道OCCセンター長からは「学んだことを実行しなさい」と新しいスタートへお奨めを賜りました。

山崎製パンの飯島社長からは「時間がかかるが、種蒔をしつかりして、よき実を結びなさい」と励ましを賜りました。

三浦喜代子OBI後援会会長からは、OBIスピリット3Kの感謝・感激・感動に加えて、「不思議」と「驚き」に満

ちたOBIを振返られ、生徒各人の賜物の自覚と人格教育にたいして感謝が捧げられました。

卒業生を代表して、加茂康一兄がOBIの学びを感謝し、答辞とされました。

榊原寛師から「地の塩、世の光として働き、イエス・キリストの証人となりなさい」と派遣の祈りが捧げられました。



野田秀師の祝福をもって、卒業式は結ばれました。佳き一日でした。

(同窓会会長 三浦秀彌)

## ●卒業に寄せて

OBIに入学させていたのがついこの間のように入っています。早や四年が過ぎ、今日の卒業式を迎えました。若い頃に戻った気分です。何十年ぶりでしょうか、とても新鮮で胸躍る心地です。人生の区切りをつけて、新たな出発が待っているようで、卒業イコール希望、そんな気がしています。

1982年に洗礼を受けて以来、聖書の学びらしきことは一切なく、祈りさえもおぼつかない者でした。

2000年に夫が天に召され、人生が一変してしまいました。その頃から聖書を学びたいという思いが強くなり、2004年に入学ができました。

初めは多少不安もあり、皆さまの足を引っぱるのではな

いかと思いましたが、なんと不思議なことでしょうか。そんな思いはすぐに消え、素晴らしい先生方のご指導のもと、授業は楽しいものになりました。乾いた砂に水がしみ込むごとく、私の心は潤され、満たされていきました。先生方の豊かなお人柄、靈性、知識を、貧しき私が十分に吸収しきれない悔しさもありましたが、様々な教会から来られている兄弟姉妹との交わりにも家族のような暖かいぬくもりを感じました。

軽井沢でのスクーリング、エジプト、ヨルダン、イスラエルへの研修旅行など、どれもこれも幸いなときでした。感謝！

あかし文章クラスで学んだ折り句を使って、OBIを詠ってみました。

O おおいなる神の学舎で  
B ベストなる師との出会いあり  
I 愛の恵みに浴する日々かな

(第15期生 菊田洋子)

# 入学式・始業式

## ●入学式・始業式報告

4月7日(月)午後6時半から2008年度OB I入学式・始業式が8階チャペルにおいて挙行されました。

当日は花散らしの風雨の中でしたが、13名の新入生とご家族や所属教会の方々、在校生、同窓生、来賓の方々が多数参列してくださいました。

式は教会音楽講師内藤真奈師によるオルガンの前奏から始まりました。曲はJ・G・ヴァルダー『主をほめまつれ、力強き栄光の王をば』でした。

そのあと全員起立して賛美歌164番を高らかに歌い主を崇めました。OB I教師伊藤淑美師の開会祈祷、続いて教務主任福井誠師が歓迎の挨拶をされました。OCC副理事長の榊原寛師、同窓生から中島總一郎兄が祝辞を述べられました。

長年教会音楽講師としてご指導くださっている植木朋子師が、今年も歓迎の特別賛美

としてモーツアルトの『主を讃えよ』を聴かせてくださいました。

メッセージには副学院長の世良田湧侍師が立ってくださいました。聖書はヨシユア記11節、9節とマタイの福音書11章28節が開かれました。みことばを自分のものとする、イエス様のもとに行き、イエス様から学ぶことを奨められました。

賛美歌338番で一同献身を確認し、OB I教師横山武師から祝辞をいただき、無事式は終了しました。終始、副学院長藤原導夫師の簡潔な司会で進められました。

チャペル内には早くも新入生たちの信仰からあふれ出る向学心が燃えはじめていました。また、臨在の主が一人ひとりを歓迎しておられるのを強く感じ、今年一年OB Iが導かれ守られるのを確信し、大きな期待をもって主を見上げました。

(後援会会長 三浦喜代子)

## ●本科生になつて

私は昨年の6月から専修科生として学んでおり、その意味では、右も左も分らない初々しい一年生というのではありません。ですから、入学式といつても特に緊張することもなく、主人と下の息子と共に会場に赴きました。

とはいえ、やはり適度の緊張感、高揚感があり、それらと相まって、式が進むにつれ、喜びとも不安ともいい難いものがふつふつとわいて来るのを覚えました。それはこれから始まる学びへの期待感であり、その与えられる知識、みことばの深みに分け入ることが自分にどれほどできるのかという不安でもあったと思います。

式は静かにシンプルに暖かく執り行われました。教会の牧師ご夫妻が来て下さったこと、また事前に知らされていなかった主任牧師が花束を持

って駆けつけて下さったことも、入学式にふさわしく晴れがましく、うれしいことでした。

『その日、万軍の主は、民の残りの者にとつて、美しい冠、栄えの飾り輪となり、・・・攻撃して来る者を城門で追い返す者にとつて、力となられる』

(イザヤ28:5-6)

これは敬愛してやまないシスターが、入学式の朝にアメリカから送って下さったみことばです。この年で学びを始めてそれを阻むものは多々あるでしょう。記憶力の低下、健康面、あるいは経済的なこと。しかし万軍の主はそれらと戦う私たちの力となり、先頭に立って戦ってくださいるのでしよう。願わくば、この三年間の学びが守られ、全うできますように。

(本科生 小宮明子)

# 学窓トピック

## 聖書科・音楽科

・2008年4月7日(月) 午後6時半より入学式が執り行われました。今年、聖書科本科5名、専修科5名、聴講2名、一般音楽コース声楽科1名の方が入学されました。新入生の学びの祝福のために覚えてお祈りくだされば幸いです。

・新学期より「おびねっと」が稼働いたします。これは、パソコンや携帯電話を利用して、OBIと在校生、同窓生とのよりよい情報伝達をはかり、図書貸出や履修単位確認、登録などが自分でできるシステムです。詳しくは、別途ご案内を差し上げます。

・図書貸し出しが始まります。聖書科通信の方は、卒業研究許可がおりた方へのみ貸し出しがなされます。地方での学習で一番困るのは、神学書などの参考書が手に入りにくいことです。お茶の水聖書学院では学びたい意欲に応じて、そのような方々に図書郵送貸し出しの便宜を図りたく考えております。ぜひご利用ください。送料は自己負担となります。

(教務・福井誠)

## サマー・スクーリングのご案内

恒例のサマー・スクーリングが近づいてまいりました。ご好評いただいておりますサマー・スクーリングも今年で第13回目となります。日常の忙しさからしばし離れ、静かな環境の中での学びと祈りへのご案内を申し上げます。

**日程** 7月7日(月)～9日(水)

**会場** 恵みシャレー軽井沢

**テーマ** 「祈りはあなたを変える」

**講師** 池田博先生(本郷台キリスト教会牧師)

池田先生は本郷台キリスト教会の牧師であられ、かつてチリ紙交換をしながら伝道し、現在の立派な教会を築き上げられたユニークな器です。また祈りのセミナー講師としても広く活躍しておられ、『祈りは私を変え、教会を変える』(いのちのことば社)という本も出しておられます。

**参加費用** 全日程(2泊3日) 26,000円

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

お問い合わせ、お申し込みは → TEL 03-3296-1005

サマー・スクーリング・コーディネーター 藤原導夫

# 主と教会に仕える同窓生たち⑥

第13期生 阿江美千代

## 「OBIへの道」

私は2002年にそれまで勤めていた幼稚園を退職し、イギリスへ語学留学しました。

学校はオペレーションモビライゼーション(OM)という宣教団体が運営していました。OMは世界宣教船ドウロス号とロゴスホープ号を所有し、他にも約4000名が90カ国で世界宣教のために働いている世界的規模の団体です。多くの学生はこれから世界宣教に出ていくために英語を学ぶ人達でした。彼らの信仰熱心な姿を見て、クリスチャンホームで育った私は信仰の違いを感じ始めました。彼らの確固たる信仰態度を見た時に自分にとつての神様は「私が何かをしなれば認めて下さらない」という思いに駆られていきました。彼らから祈られ励まされ自分もがきながら何とか答えをだしたいと思っていました。約5ヶ月の滞在中にその答えは出ずに帰国しました。帰国後、イギリス滞在を振り返り人間の力ではどうしようもない状況に陥った

時に不思議な方法で助けられたことを数々思い出しました。またそれまで「感情」として受け入れていた信仰ではなく「知識」を備えた聖書の学びをしたいという願いももちました。この二つの理由から、アルバイトをしながら学べる環境のOBIに入學しました。不思議に全て整えられ勤務時間も職場の理解があり短縮させてもらうことができました。途中職場が変わっても学ぶ環境は変わることなく3年半後に卒業致しました。

OBIでは聖書をよく読むことで神の偉大さを知り、何千年と変わりなく人間に対して限らない愛と憐れみを与えて下さっている神様を知る時となりました。また河村先生の授業ではコリント第一の手紙から主の恵みについて考えさせられ、ただ主の憐れみのみで存在できること、この与えられた環境にも感謝しました。学びを始めていくうちに「知識」と「感情」の両方を備えた時に信仰が揺らぐことはなくなり、全ては神の御手のなかにありその状況に感謝することが素直にできるようになりました。イギリス滞在中の時のような信仰に対する不安や焦りはなくなりました。

卒業後は現在仕事としている幼稚園教諭の専門性を高めたく幼児教育の学びに専念しています。通信大学に入學し今年4年生になりました。本来ならばOBIで培ったものを教会で活かしたかったのですが、こうした環境により教会奉仕を控えているのが現状です。しかし、ここにも主の備えはされており教会員の方々から励まされ、奉仕も他の人がしてくださり落ち着いた環境で学びができています。また時間の管理や能率よくレポート、試験にのぞめるように常に祈りつつ進めています。この学びも私自身の信仰の証詞であることに感謝しています。

「天が地上はるかに高いように、  
御恵みは、主を恐れる者の上に大きい」  
(詩篇103・11)





# 人生の諸段階にふさわしく

本学院講師 堀 肇

## ●アンチエイジングの時代

高齢社会を迎え、いつの間にかエイジング (aging) という言葉が生活の中に入ってきました。言葉の意味は年齢を重ねていくこと、つまり加齢と言うことですから意味そのものから言えば、それは生まれた時から始まっているとも言えます。しかし今日エイジングというとき、加齢は老化という意味合いで使われており、そこには衰退・退行のイメージが伴っています。

そんなことから、現代ではその老化に對抗・抵抗するという意味でアンチエイジングという言葉が頻繁に使われるようになってきました。現実には老化防止のための予防や治療も急速に進歩してきていますし、周囲を見回すと様々な若返り法や美容法を試みている人たちも結構いま

す。また敢えてアンチエイジングとは言わなくてもシミや弛みを気にしたり、白髪を染めたり、「活性酸素が…」などと言って抗老化の戦いをしている人が多いのではないのでしょうか。これはアンチエイジングを実践しているということなのです。

もちろんこれには肉体面だけでなく精神面も強調されていて、若い人たちに負けじと様々な学びや文化活動に参加している多くの高齢者を見ると、現代はまさにアンチエイジングの時代だと感じさせられます。ことにマスコミを通して元気で若々しく活躍している人たちが話題になることが多いせいか、加齢や老化に抵抗を覚える人たちが増えてきているのではないのでしょうか。

## ●健全な精神生活が損なわれぬように

けれどもどうなのでしょう。この一見何の問題もないような、むしろ人生に対して積極的に見える生き方や態度には振り返って考えてみるべきものは何もないのでしょうか。確かに若さが保たれ健康

で長生きしたいという思いは誰もが抱く自然の欲求であり感情であると思います。しかし若さが強調され、独特な健康ブームが蔓延している現代文化の中にあつて、ちよつと立ち止まって考えてみたいのです。それは若さ、強さ、健康こそが幸せな人生を送るための主要な条件であるような哲学を刷り込まれてはいないかということです。そのような哲学を身につけてしまうと老いや死だけでなく悲しみや苦しみというものも受容しにくくなってしまうのではないのでしょうか。私はこのテーマを思い巡らすとき、きまつてパスカルの言葉を思いだすのです。

「健康と病氣、富と貧しさとこの世のあらゆることがらのうち、どれが自分に有益であるかを知りません。それは人間と天使の力を超え、あなたの摂理の秘密のうちに隠されている分別であります。その摂理をわたしはあがめ、あえて探索しようとは思いません。」

『世界の名著・パスカル』中央公論社

これは人生に対する諦観を述べているのではなく、また健康志向が浅薄で病氣

には価値があると単純に語っているのでもありません。この世の営みの中で、ある状態こそが有益で価値があるのだと言つてそれを絶対化しないという意味です。これは加齢や老化について考える場合も同じではないかと思えます。いつも若々しく健康であることは望ましいとしても、そうであることが人生の勝利者のような感覚を抱くならば老いは耐え難いだけでなく、健康を害し何もできなくなつたような場合には、恐ろしい無用感に襲われることになってしまうのではないでしょう。その意味でアンチエイジングの強調が健全な精神生活を損なうものとならないようにと私は思っているのです。

### ●自分の年齢を受け入れて

では年を重ねていくことをどのよう to 考えたらいいのでしょうか。この問題に対して聖書には示唆に富んだ言及があります。例えば「しらがは栄光の冠」(箴言一六・三二)であるとか、「あなたは白髪の老人の前では起立し、老人を敬い」(レビ記二〇・三二)などとあるように

老年期にある人たちが固有の美しさや価値が語られています。さらに留意したい点 は人間にはその時期(発達段階)にふさわしい生き方があるということについて も記されています。パウロは牧会書簡において「老人たち」、「年をとつた婦人たち」、「若い婦人たち」、「若い人々」などと、それぞれの時期にふさわしい人生態度や信仰の在り方について触れています。これは言い換えますと人はライフサイクル(人生周期)の各ステージにおいて、それぞれ異なつた生き方や役割があること についても教えているということです。これを心得ていることが心身の調和にとつてとても大切なことではないかと思ひます。

この点について結婚学で著名なテオドル・ボヴェーも『家庭生活の喜び』の中でこんなことを述べています。

「人間の一生は『正常な場合』には、個々の時期がそれぞれ意義深いものであり、全体の平衡を保つためにどの時期も欠くことが出来ない、一つの調和的な発展の過程を意味しています。……そこで

大切なことは、人間は自分が位置している人生の段階にふさわしく生きるべきであつて、時期はずれな生き方をしてはならない、ということです」と。

この「人生の段階」とか「時期」(心理学では発達期)というものには個人差があつて年齢で単純に表せないものですが、ボヴェーの指摘は、その人の心身の発達段階に応じた生き方をするこの大切さを教えているのです。自分の人生の段階や年齢を受け入れることは難しいことですが、これができる人は魅力的な心の持ち主であると思ひます。ボヴェーはイエスの言葉を言い換え(応用し)て、「自分の若さを救おうと思ふものは年老い、自分の年齢を受け入れるものは若くありつづけるであろう」とも言っています。味わい深い言葉です。私も今の自分にふさわしい生き方をしていきたいと思つて

# OBI会計報告

主の御名を賛美いたします。  
いつもOBI会計のためにご  
支援、ご加鞭を賜りありがと  
うございます。

第7期（2007年3月1  
日～2008年2月29日）  
が終了しましたので、ここに  
ご報告いたします。

教員・スタッフが一致して、  
OBIの学院としての充実に、  
よりいっそう努力してまいり  
ますので今後とも何卒、関係

## 第7期収支報告

（2007年3月1日～2008年2月29日）

（単位：円）

当期収入	
授業料収入	8,095,900
行事収入	968,100
献金収入	12,111,792
助成金収入	3,000,000
その他収入	230,413
収入計	24,406,205
当期支出	
学事支出	12,185,306
行事支出	1,020,334
経費支出	11,531,196
その他支出	301,385
支出計	25,038,221
第7期収支差額	-632,016

※第7期収支差額の632,016円の赤字は、  
繰越金 688,136 円充当することで 56,120  
円の黒字となります。

各位の御指導、御鞭撻の程よ  
ろしくお願い申し上げます。

（OBI会計）

### ◎OBI後援会献金御芳名録

（2008.2.1～2008.4.10）

#### ▽後援会維持会員（個人）

有田貞一 有田美栄子 猪狩友行  
飯島多稼夫 小野沢恵子 佐藤敬  
金本悟 木下順子 国東恵子 窪  
井節子 小林喜久雄 斉藤とし子  
佐野謙次 佐野寿美子 須子都  
関節子 世良田湧侍 田中恵子  
中川和代 浪井弘子 西満

平松庸一 福井誠 藤原導夫

増尾善文 増田誉雄 松岡常子

三浦喜代子 三浦秀弥 森登

宮本三枝子 目崎由紀子 森本馥

依田和子 植木朋子 中島總一郎

#### ▽後援会協力会員（個人）

近藤はるみ 羽鳥明 脇坂勇

山口勝政 窪田淳子

（団体）中山キリスト教会

練馬神の教会

#### ▽冬季献金（個人）

長橋晴子 倉沢薫代 日名富子

（団体）古河教会

#### ▽OBI協力献金（個人）

恩田千恵子 中島總一郎

田中美枝子 吉田加代子

大淵セツ 米田由起子 萩原滋

加茂康一 加茂早苗 鈴木ますみ

横田孝子 石塚幸子 加賀谷紀子

山本しづか 三浦秀弥 藤村陽子

高野富男 菊田洋子 真野悦子

永井忠道 永井美和 正田孝子

田畑勝敏 大澤克哉 玉松陽子

▽卒業祝金（個人）飯島延浩

堀肇 三浦喜代子 柳沢光子

▽入学祝金 松永雅雄

▽指定感謝献金（個人）

増尾邦子 伊藤淑美 砂谷智枝  
高崎公子 増田誉雄 福井誠

（団体）ホサナ・キリスト教会

OBI同窓会 教会音楽科

▽特別献金（個人）佐野謙次

（団体）山崎製パン株式会社

飯島食品科学振興財団

### ◎後援会からのお願い

『OBIを祈り支える後援  
会』は今日まで皆様方の熱い  
お祈りと献金によってOBI  
を支えてまいりました。深く  
感謝申し上げます。今後とも  
いっそうのご協力をお願い申  
上げます。

新しい維持献金者を求めて  
います。郵便預金から自動振  
替の手続きをしていただけ  
ら幸いです。金額は一口千円  
からです。

ご賛同、ご協力いただける  
方には、所定の「自動払い込  
み利用申込書」をお送り致し  
ますので、OBI事務局まで  
ご一報いただければ幸いです。

03・3296・1005